

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻 【 経営学研究科 経営学専攻 修士課程 】
試験科目 【 専門選択試験 経営学 】

【出題意図】

経営学部などの学部レベルでの、経営学・企業論に関する幅広い専門知識があるのかを問う。

【解答上の注意】問題Ⅰおよび問題Ⅱの両方に解答しなさい。

問題Ⅰ 戦後の日本の経済界では六大企業集団や巨大企業の傘下に関連する多数の企業群が連なる独立系企業集団が大きな存在感を示して来た。企業集団の特色について説明しなさい。

【解答例】

六大企業集団

戦前は4大財閥など幾つかの財閥によって経済界が支配されるほど大きな経済力があつた。財閥はファミリー・同族による閉鎖的な所有支配があつた。すなわち一部のファミリーが大株主として財閥本社を所有支配し、この本社が持株会社となつて傘下には各産業を代表する多くの大企業を多角的に支配する経営形態をとつていた。実際の経営は学卒の有能な番頭経営者たちが担つていたが、三菱では岩崎家がトップを担つた。

戦後は財閥解体によつて、ファミリー・同族による直接支配は無くなつたが、人的関係は残されていり、旧財閥は社長会のもと企業集団として再結成した。1950年代前半には三井の月曜会（のちの二木会）、住友の白水会、三菱の金曜会などの社長会が結成された。これらは定期的な会合をもち、解体されていりた商社も大合同した。さらに遅れて金融系の旧安田財閥の富士銀行系、三和銀行系、第一勧業銀行系も結成されて、企業集団内で取引を行う。

企業集団の各業界の有力企業が相互利益を目的として集まり、企業同士は横の水平的な関係を築いた。以下のような特色があつた。

- ① 社長会が結成され、各企業のトップが集まり、情報交換やグループの結束が確認される
- ② ファミリーによる垂直的な所有支配に変わりに、企業同士が互いの株を持ち合う株式相互持合いが進んだ。相互会社の株を他社は持てないが、相互会社は他社の株式を所有した。相互所有をすることで安定株主構造が生まれた。これは敵対的な買収を避けるためにとられた。株式保有政策であつた。役員が派遣も行われた。相互の依存関係を深め、経営危機の時には救済のセーフティーネットとなつた
- ③ メンバー企業は各業界の有力企業であり、多くの業種からなり、ワンセット主義と言われた。企業の関係は基本的に対等であるが、旧財閥系は銀行がメインバンクとして、また巨大商社がそれぞれ中核的なメンバーとなつた。銀行によるグループ企業に対する系列融資が行われ、商社や企業間では系列取引が行われた。取引関係は互恵的である。企業集団同士は競争的な関係にあり、激しい競争が行われた。

独立系企業集団

企業集団が大企業の横の水平的なつながりを持っていたのに対して、1つの大企業がピラミッドの頂点にいて、傘下に関連する企業が垂直的な関係は系列と呼ばれる。こうした企業関係は親子関係として捉えられる。親会社には子会社、孫会社が連なっている。上下関係から資本や役員派遣などの人的関係が結ばれた。長期的な取引のもと、庇護を温情の「家」の論理が見いだせる。自動車、電機などの製造業では、自社の系列企業から部品供給を受けて最終製品を組み立てるといりる生産方式を採用した。

トヨタ自動車は完成車を作る大企業であるが、その部品を支える、一次下請け（ティア1）、二次下請け（ティア2）、三次下請け（ティア3）といった傘下から部品を調達している。

【評価のポイント】

- ・六大企業集団には旧財閥系の三井・三菱・住友・安田（芙蓉グループ）があるので、財閥における所有と経営に関する理解が欠かせない。戦後に形成された六大企業集団には旧財閥系、銀行系があるが、その特色として、社長会、株式相互所有、多くの業種からなるワンセット主義などのキーワードがあるか、また各集団が相互に競争し、集団内部での協力・結束について理解が出来るかを問う。
- ・独立系企業集団とは、自動車製造業などで特に発達した巨大セットメーカーとその傘下の系列企業との関係性が親子関係であること、海外から批判された系列取引という強固なつながりがあるなどの特色を理解しているかを問う。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

問題II 両利きの経営(Ambidexterity)とは何か、具体例を挙げて説明しなさい。

【解答例】

「両利きの経営」とは、組織学習論やイノベーション(innovation)論において、「知の深耕(深化、活用)」と「知の探索」を両立する経営のことです。

Duncan(1976)はイノベーションの「創出段階(initiation stage)」と「実行段階(initial stage)」に対応して、組織構造を適合させるコンティンジェンシー・モデル(contingency model)として、

「二重構造(dual structures)」を主張し、「両利き組織(ambidextrous organization)」という概念を提唱しました。

一方で、March(1991)は組織学習の過程で蓄積された既存の「知の深耕(exploitation)」と、新たな発見の可能性を模索する「知の探索(exploration)」の両立が重要であることを指摘しています。

しかし、Levinthal & March(1993)は「知の深耕」が「知の探索」よりも優先されてしまう傾向を明らかにし、「学習の近視眼(myopia of learning)」と名付け、その両立の困難さを指摘しました。

Tushman & O'Reilly(1996)は「知の深耕」と「知の探索」を別組織で遂行することで両立する解決策を導き、「Ambidexterity」という組織設計を提唱し、入山(2012)が「両利きの経営」という訳語を充てました。

「両利きの経営」の具体例としては、BYDグループの経営が挙げられます。

BYD 創業者の王伝福氏は中南工業大学を卒業後、北京有色金属研究総院でニッカド電池(NiCdB)の研究に従事し、副教授を経て、1993年に同院が設立した深圳比格電池有限公司の総経理に就任しましたが、

1995年にBYDを設立し、携帯電話用のニッカド電池やニッケル水素電池(NiMH)を開発製造しました。

BYDは1996年にリチウムイオン電池(LiB)の開発を始めましたが、これは電池事業の「知の深耕」と言えます。

一方で2003年に西安秦川汽車を買収し、BYD Autoを設立して自動車事業へ参入する「知の探索」をしています。

BYD Autoは西安秦川汽車の生産していた小型車Flyerの製造販売を継続して自動車事業について学習し、2005年から独自開発の乗用車F3を製造販売することで、自動車事業という新規事業を軌道に乗せ、2008年には世界初の量産プラグインハイブリッド車(PHV)であるF3DMを製造販売しています。

他社のHVやEVが搭載していたのは正極材料にコバルトを含む三元系リチウムイオン電池でしたが、F3DMはリン酸鉄リチウムイオン(LFP)電池を搭載することにより低コストで安全性を高めました。

BYDグループは電池事業の「知の深耕」として、リチウムイオン電池分野でも特にLFP電池の開発を進めながら、「知の探索」となる新規事業としての自動車事業も成長させることで、「両利きの経営」を実現しています。

【評価のポイント】

「両利きの経営」における「知の深耕」と「知の探索」について理解できているかどうか評価しています。

「Ambidexterity」における「exploration」については「探索」が定訳になっていますが、「exploitation」については「活用」、「深化」、「深耕」などの表現であれば正解としています。

具体例については、「知の深耕」と「知の探索」のそれぞれの概念を理解できているかどうか評価しています。

「知の深耕」と「知の探索」について別の企業の具体例を挙げている回答も見られましたが、「両利きの経営」とは「知の深耕」と「知の探索」を両立する組織設計のことなので、「知の深耕」と「知の探索」について1つの企業で両立している具体例の方が望ましい解答になります。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻 【 経営学研究科 経営学専攻 修士課程 】
試験科目 【 専門選択試験 経営学（外国人留学生） 】

【出題意図】

経営学部などの学部レベルでの、経営学・企業論に関する幅広い専門知識があるのかを問う。

【解答上の注意】問題Ⅰおよび問題Ⅱの両方に解答しなさい。

問題Ⅰ 戦後の日本の経済界では六大企業集団や巨大企業の傘下に関連する多数の企業群が連なる独立系企業集団が大きな存在感を示して来た。企業集団の特色について説明しなさい。

【解答例】

六大企業集団

戦前は4大財閥など幾つかの財閥によって経済界が支配されるほど大きな経済力があつた。財閥はファミリー・同族による閉鎖的な所有支配があつた。すなわち一部のファミリーが大株主として財閥本社を所有支配し、この本社が持株会社となつて傘下には各産業を代表する多くの大企業を多角的に支配する経営形態をとつていた。実際の経営は学卒の有能な番頭経営者たちが担つていたが、三菱では岩崎家がトップを担つた。

戦後は財閥解体によって、ファミリー・同族による直接支配は無くなつたが、人的関係は残されていて、旧財閥は社長会のもと企業集団として再結成した。1950年代前半には三井の月曜会（のちの二木会）、住友の白水会、三菱の金曜会などの社長会が結成された。これらは定期的な会合をもち、解体されていた商社も大合同した。さらに遅れて金融系の旧安田財閥の富士銀行系、三和銀行系、第一勧業銀行系も結成されて、企業集団内で取引を行う。

企業集団の各業界の有力企業が相互利益を目的として集まり、企業同士は横の水平的な関係を築いた。以下のような特色があつた。

- ① 社長会が結成され、各企業のトップが集まり、情報交換やグループの結束が確認される
- ② ファミリーによる垂直的な所有支配に変わりに、企業同士が互いの株を持ち合う株式相互持合いが進んだ。相互会社の株を他社は持てないが、相互会社は他社の株式を所有した。相互所有をすることで安定株主構造が生まれた。これは敵対的な買収を避けるためにとられた。株式保有政策であつた。役員が派遣も行われた。相互の依存関係を深め、経営危機の時には救済のセーフティーネットとなつた
- ③ メンバー企業は各業界の有力企業であり、多くの業種からなり、ワンセット主義と言われた。企業の関係は基本的に対等であるが、旧財閥系は銀行がメインバンクとして、また巨大商社がそれぞれ中核的なメンバーとなつた。銀行によるグループ企業に対する系列融資が行われ、商社や企業間では系列取引が行われた。取引関係は互恵的である。企業集団同士は競争的な関係にあり、激しい競争が行われた。

独立系企業集団

企業集団が大企業の横の水平的なつながりを持っていたのに対して、1つの大企業がピラミッドの頂点にいて、傘下に関連する企業が垂直的な関係は系列と呼ばれる。こうした企業関係は親子関係として捉えられる。親会社には子会社、孫会社が連なっている。上下関係から資本や役員派遣などの人的関係が結ばれた。長期的な取引のもと、庇護を温情の「家」の論理が見いだせる。自動車、電機などの製造業では、自社の系列企業から部品供給を受けて最終製品を組み立てるといった生産方式を採用した。

トヨタ自動車は完成車を作る大企業であるが、その部品を支える、一次下請け（ティア1）、二次下請け（ティア2）、三次下請け（ティア3）といった傘下から部品を調達している。

【評価のポイント】

- ・六大企業集団には旧財閥系の三井・三菱・住友・安田（芙蓉グループ）があるので、財閥における所有と経営に関する理解が欠かせない。戦後に形成された六大企業集団には旧財閥系、銀行系があるが、その特色として、社長会、株式相互所有、多くの業種からなるワンセット主義などのキーワードがあるか、また各集団が相互に競合し、集団内部での協力・結束について理解が出来るかを問う。
- ・独立系企業集団とは、自動車製造業などで特に発達した巨大セットメーカーとその傘下の系列企業との関係性が親子関係であること、海外から批判された系列取引という強固なつながりがあるなどの特色を理解しているかを問う。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

問題II 両利きの経営(Ambidexterity)とは何か、具体例を挙げて説明しなさい。

【解答例】

「両利きの経営」とは、組織学習論やイノベーション(innovation)論において、「知の深耕(深化、活用)」と「知の探索」を両立する経営のことです。

Duncan(1976)はイノベーションの「創出段階(initiation stage)」と「実行段階(initial stage)」に対応して、組織構造を適合させるコンティンジェンシー・モデル(contingency model)として、

「二重構造(dual structures)」を主張し、「両利き組織(ambidextrous organization)」という概念を提唱しました。

一方で、March(1991)は組織学習の過程で蓄積された既存の「知の深耕(exploitation)」と、新たな発見の可能性を模索する「知の探索(exploration)」の両立が重要であることを指摘しています。

しかし、Levinthal & March(1993)は「知の深耕」が「知の探索」よりも優先されてしまう傾向を明らかにし、「学習の近視眼(myopia of learning)」と名付け、その両立の困難さを指摘しました。

Tushman & O'Reilly(1996)は「知の深耕」と「知の探索」を別組織で遂行することで両立する解決策を導き、「Ambidexterity」という組織設計を提唱し、入山(2012)が「両利きの経営」という訳語を充てました。

「両利きの経営」の具体例としては、BYDグループの経営が挙げられます。

BYD 創業者の王伝福氏は中南工業大学を卒業後、北京有色金属研究総院でニッカド電池(NiCdB)の研究に従事し、副教授を経て、1993年に同院が設立した深圳比格電池有限公司の総経理に就任しましたが、

1995年にBYDを設立し、携帯電話用のニッカド電池やニッケル水素電池(NiMH)を開発製造しました。

BYDは1996年にリチウムイオン電池(LiB)の開発を始めましたが、これは電池事業の「知の深耕」と言えます。

一方で2003年に西安秦川汽車を買収し、BYD Autoを設立して自動車事業へ参入する「知の探索」をしています。

BYD Autoは西安秦川汽車の生産していた小型車Flyerの製造販売を継続して自動車事業について学習し、2005年から独自開発の乗用車F3を製造販売することで、自動車事業という新規事業を軌道に乗せ、2008年には世界初の量産プラグインハイブリッド車(PHV)であるF3DMを製造販売しています。

他社のHVやEVが搭載していたのは正極材料にコバルトを含む三元系リチウムイオン電池でしたが、F3DMはリン酸鉄リチウムイオン(LFP)電池を搭載することにより低コストで安全性を高めました。

BYDグループは電池事業の「知の深耕」として、リチウムイオン電池分野でも特にLFP電池の開発を進めながら、「知の探索」となる新規事業としての自動車事業も成長させることで、「両利きの経営」を実現しています。

【評価のポイント】

「両利きの経営」における「知の深耕」と「知の探索」について理解できているかどうか評価しています。

「Ambidexterity」における「exploration」については「探索」が定訳になっていますが、「exploitation」については「活用」、「深化」、「深耕」などの表現であれば正解としています。

具体例については、「知の深耕」と「知の探索」のそれぞれの概念を理解できているかどうか評価しています。

「知の深耕」と「知の探索」について別の企業の具体例を挙げている回答も見られましたが、「両利きの経営」とは「知の深耕」と「知の探索」を両立する組織設計のことなので、「知の深耕」と「知の探索」について1つの企業で両立している具体例の方が望ましい解答になります。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻 【 経営学研究科 経営学専攻 修士課程 】
試験科目 【 専門選択試験 マーケティング 】

【出題意図】

- ・マーケティングに関する基礎的な概念・技法について多角的に理解しているか評価する。
- ・技術革新等の社会的背景の変化がマーケティング実務に与える影響について見解を問う。
- ・それらについて、詳細かつ論理的に説明できているかを評価する。

【解答上の注意事項】 問I・問IIの両方に解答すること。

問I 以下の問いに答えなさい。

1. 広告コミュニケーション効果階層モデルである AIDA モデルと DAGMAR モデルに関して、以下の問いに答えなさい。

① 2つのモデルの概要、およびこれらのモデルの利点と欠点を説明しなさい。

② 現在のデジタル時代の消費者行動に適した効果階層モデルを考えたときに、上記のモデルに足りないものは何か、必要なものは何か、あなたの考えをできるだけ具体的に記述しなさい。

2. カスタマー・ジャーニーについて、以下の問いに答えなさい。

① カスタマー・ジャーニーとは何か、それが重視されるようになった背景も含めて説明しなさい。

② カスタマー・ジャーニーを表現するためのカスタマー・ジャーニー・マップに必要な要素は何か、どのように描けばよいか、説明しなさい。

【出題意図と評価のポイント】

本資料では、問題の出題意図と採点のポイントを示している。採点にあたっては、基礎概念の理解度、記述内容の豊富さ・論理性・具体性、文章の可読性を特に重点的に見る。

1 .

① 広告コミュニケーション効果階層モデルの代表的な2つのモデルについて、階層構造、およびモデルの位置づけを理解できているかを評価する。AIDA はその後の広告コミュニケーション効果階層モデルの基になっていること、DAGMAR は事前に設定した目標の達成度合いで広告を管理すること、といった点において、両モデルは現在の広告効果測定の見え方につながっている。このような位置づけに加えて、各モデルの概要や利点・欠点を詳しく説明できているかを評価する。

② AIDA は 1900 年頃、DAGMAR は 1961 年に提唱されている。当然、現在の消費者行動に合わない点も多いため、複数の視点から、具体的かつ論理的に説明できているかを評価する。例えば、消費者のメディア接触行動の変化として、情報のシェアやマルチタスキング行動などを記述しているかどうか。消費者の捉え方として、受動的な客体ではなく、能動的主体に変化したことを記述しているかどうか。これらの点から、一方向ではなくインタラクティブな広告コミュニケーション効果階層モデルの必要性を導いているかどうか。さらに、広告目標設定の仕方について、基準を作る必要性に言及しているかどうか、などである。

2.

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

①現在はデジタルの進化によって、リアル店舗だけでなく、オンラインショッピングや SNS、アプリなど、タッチポイントが多様化している。これらのタッチポイントにおいて、消費者がストレスのない購買体験ができるように、企業はカスタマー・ジャーニーを用いて消費者行動の全体像を捉えることが必要となっている。カスタマー・ジャーニーの概要に加え、こうした背景まで理解しているかどうかを評価する。

②カスタマー・ジャーニー・マップを書く目的、および書き方について、詳細かつ論理的に説明できているかを評価する。カスタマー・ジャーニー・マップは、購買に至るプロセスごとに消費者の行動、タッチポイント、思考や感情などを整理することで、カスタマー・ジャーニーを可視化するものである。そこからインサイトを導くことで、各プロセスの課題を抽出することが目的である。それらの課題から、施策立案やオムニチャネル戦略立案などにつなげることができる。なお購買に至るプロセスには、広告コミュニケーション効果階層モデルを用いることも多い。こうした点を入れ、具体的な例を用いて詳細に説明できているかを評価する。

問II マーケティング計画の策定においては、他社製品との差別化を図るために、自社製品のポジショニングを検討することが極めて重要である。ポジショニングを検討する際に、しばしば用いられるツールが知覚マップである。

ポジショニングおよび知覚マップに関して、以下の3つの問いに答えなさい。

1. 知覚マップを用いてポジショニングを検討することの利点と問題点をそれぞれ詳しく説明しなさい。
2. 他社製品との差別化とは反対に、他社製品への同質化が目指されることもある。同質化はどのような企業にとって、いかなる局面で有効であるか。具体的な例を交えつつ、詳しく説明しなさい。
3. AI を活用することで、ポジショニングの作業はどのように変化すると考えられるか。マーケターに求められる資質や役割の変化にも触れつつ、あなたの考えを論じなさい。

出題意図・解答例

本資料では、問題の出題意図・解答例を示している。採点にあたっては、基礎概念の理解度、記述内容の豊富さ・論理性・具体性、文章の可読性を特に重点的に見る。加えて、問題の性質に応じて（特に問題IIの小問3）では、受験者自身の見解を踏まえた独創性が見られるかを採点にあたって重視する。以下には、小問ごとの出題意図と解答例を示すが、あくまで解答の方針を示すものであり、解答例を絶対的な正答と位置付けているわけではない。マーケティングを専門とする教員が提出された個々の答案内容を読み込み、受験者が本学経営学研究科の学生にふさわしい見識を有しているか公正に判断する。

問II

小問1

【出題意図】

マーケティング計画において、ポジショニングの策定は極めて重要な位置付けを占める工程である。ポジショニングについては、市販されているマーケティングのテキストのほとんどで解説されている。よって、マーケティング研究を志す者にとって、ポジショニングは必ず押さえておくべき基礎概念といえよう。そこで、本問では、ポジショニングが単にマップを描く作業ではなく、本質的な差別化を目指すための作業であることを的確に理解しているか確認するための問題を出題した。

【解答例】

知覚マップを用いてポジショニングを検討する利点と問題点の例を示す。ただし、解答例でもって全ての論点を網羅しているわけではない。ここに挙げた以外の内容でも、解答内容が論理的に正しいと判断されれば、点数を付与する。

第一の利点として、ポジショニングの作業が容易になることを挙げられる。知覚マップでは、2つの軸を組み合わせ、4象限の空間上で製品のポジショニングを考える。本来、無数の切り口がありうるポジショニングの作業を、知覚マップでは2つの軸を選択するだけで考え始めることができる。こうした作業の容易性は、特に経験の浅いマーケターにとって利点といえよう。

第二の利点として、ポジショニングのアイデアを増やせるという利点がある。2つの軸の組み合わせによってポジショニング空間が規定され

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

るため、軸を1つ変えるだけで、異なるポジショニングが生まれうる。よって、知覚マップはアイデアを発散させ、より多様なポジショニングについて考えるためのツールとして有効であろう。

第三の利点として、ポジショニングについての社内理解を得やすい点を挙げられる。知覚マップは、競合他社製品との違いを視覚的にわかりやすく表現しているツールである。そのため、社内の企画会議を通す際に、言葉だけで説明するよりも説得力が高く、承認を得やすくなる効果が期待できる。

一方、知覚マップを用いたポジショニングには問題点もあると考えられる。第一に、使用が容易なツールであるがゆえに、誤用されやすいという点である。例えば、知覚マップの2軸は直交しているため、理屈上は無関連の属性を選択する必要がある。しかし、「高価格—低価格」「高品質—低品質」のように、2つの軸に極めて関連の高い属性を配置してしまうという誤りが散見される。この場合、「高価格かつ低品質」と「低価格かつ高品質」の象限は空白になっていることが多い。「価格が高いほど、品質も良い」のは当たり前だからである。このように、関連の高い2軸を選定すると、事実上1つの軸だけでポジショニングを考えていることになってしまう。これでは知覚マップの妙味をひきだせているとは言えない。

第二に、本質的な差別化には結びつきづらいという問題がある。知覚マップ上で表現される他社製品との違いは、あくまで相対的なものではない。たとえ知覚マップ上のホワイトスペースに自社製品を位置付けたところで、それは同じポジショニング空間の中に位置していることには変わりないからである。結果として、消費者にとってはわかりにくい微妙な違いしか訴求できないポジショニングになってしまう可能性がある。しかし、本来のポジショニングで求められる差別化とは、「○○といえば、**（製品）」といったように、他社ブランドの想起を許さない、絶対的な差別化であるはずである。知覚マップに依存してポジショニングを行うことで、この絶対的な差別化という視点が希薄になってしまうことが懸念される。

小問2

【出題意図】

差別化に関連して、競合製品への同質化が行われる条件についても入学志願者の認識を問う問題を設定した。たしかに、マーケティング戦略において差別化は重要なテーマではあるものの、差別化だけがマーケティング戦略ではない。どのような企業にとって、同質化戦略が目指すべき方向性になりうるのかを尋ねることで、マーケティング戦略のレパートリーについて多角的に理解できているかを確認することが狙いである。

【解答例】

業界において2番手以下の企業がユニークな製品を発売したとき、1番手企業はその製品への同質化を図ることが効果的な場合がある。なぜならば、1番手企業は市場シェアが大きいことから、スケールメリットを享受しやすく、2番手以下の企業よりも低価格で同品質の製品を提供できる見込みが高いからである。ユニークな製品への同質化を図ることで、より低価格かつユニークな製品というポジションを獲得し、消費者から選ばれやすくなると考えられる。例えば、大手コンビニチェーンが流行のスイーツを販売する場合、大手百貨ショップが人気雑貨を模倣した商品を販売するケース、大手家電メーカーがニッチ商品のデザインやコンセプトを模倣するケースなどが考えられよう。

小問3

【出題意図】

日常生活や企業実務において、生成AIの活用が進んでいる今日状況の踏まえ、AIの活用がポジショニングの作業に与える影響について入学志願者の見識を問う問題を設定している。今後の企業実務においては、生成AIを上手く活用できるか否かが、マーケティング戦略の成否を決める傾向が一層強まると考えられる。実務の視点をどの程度踏まえてマーケティングを学んでいるのかを確かめる問題としても、本問は適当だと考えられる。

【解答例】

第一に、AIを用いて有望なポジショニング案を数多く引き出すことが求められるようになるだろう。有望なポジショニング案を数多く引き出すには、AIに対して的確な指示を出せる、高度な言語運用能力がメーカーには必要である。プロンプトの書き方によって、AIのアウトプットのクオリティは大きく左右されるからである。（※解答はここまでで省略するが、言語運用能力を鍛えるための方法などについてさらに論じることが期待される）。

第二に、AIが提示する複数のポジショニング案のなかから、見込みのあるものを選別し、ブラッシュアップしていくことが求められるだろう。メーカーには、複数の案から優れたものを選別するための審美眼ないしセンスが問われる。そのため、審美眼ないしセンスを磨くために、メーカーには従来以上に広く深い教養が求められると考えられる。（※解答はここまでで省略するが、審美眼やセンスとは具体的にどういったものかを詳細に説明すること、さらに、それらをどのようにして鍛えていくことができるのかといったことをさらに論じることが期待される）。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻 【 経営学研究科 経営学専攻 修士課程 】
試験科目 【 専門選択試験 マーケティング（外国人留学生） 】

【出題意図】

- ・マーケティングに関する基礎的な概念・技法について多角的に理解しているか評価する。
- ・技術革新等の社会的背景の変化がマーケティング実務に与える影響について見解を問う。
- ・それらについて、詳細かつ論理的に説明できているかを評価する。

【解答上の注意事項】 問I・問IIの両方に解答すること。

問I 以下の問いに答えなさい。

1. 広告コミュニケーション効果階層モデルである AIDA モデルと DAGMAR モデルに関して、以下の問いに答えなさい。

① 2つのモデルの概要、およびこれらのモデルの利点と欠点を説明しなさい。

② 現在のデジタル時代の消費者行動に適した効果階層モデルを考えたときに、上記のモデルに足りないものは何か、必要なものは何か、あなたの考えをできるだけ具体的に記述しなさい。

2. カスタマー・ジャーニーについて、以下の問いに答えなさい。

① カスタマー・ジャーニーとは何か、それが重視されるようになった背景も含めて説明しなさい。

② カスタマー・ジャーニーを表現するためのカスタマー・ジャーニー・マップに必要な要素は何か、どのように描けばよいか、説明しなさい。

【出題意図と評価のポイント】

本資料では、問題の出題意図と採点のポイントを示している。採点にあたっては、基礎概念の理解度、記述内容の豊富さ・論理性・具体性、文章の可読性を特に重点的に見る。

1 .

① 広告コミュニケーション効果階層モデルの代表的な2つのモデルについて、階層構造、およびモデルの位置づけを理解できているかを評価する。AIDA はその後の広告コミュニケーション効果階層モデルの基になっていること、DAGMAR は事前に設定した目標の達成度合いで広告を管理すること、といった点において、両モデルは現在の広告効果測定の見え方につながっている。このような位置づけに加えて、各モデルの概要や利点・欠点を詳しく説明できているかを評価する。

② AIDA は 1900 年頃、DAGMAR は 1961 年に提唱されている。当然、現在の消費者行動に合わない点も多いため、複数の視点から、具体的かつ論理的に説明できているかを評価する。例えば、消費者のメディア接触行動の変化として、情報のシェアやマルチタスキング行動などを記述しているかどうか。消費者の捉え方として、受動的な客体ではなく、能動的主体に変化したことを記述しているかどうか。これらの点から、一方向ではなくインタラクティブな広告コミュニケーション効果階層モデルの必要性を導いているかどうか。さらに、広告目標設定の仕方について、基準を作る必要性に言及しているかどうか、などである。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

2.

①現在はデジタルの進化によって、リアル店舗だけでなく、オンラインショッピングや SNS、アプリなど、タッチポイントが多様化している。これらのタッチポイントにおいて、消費者がストレスのない購買体験ができるように、企業はカスタマー・ジャーニーを用いて消費者行動の全体像を捉えることが必要となっている。カスタマー・ジャーニーの概要に加え、こうした背景まで理解しているかどうかを評価する。

②カスタマー・ジャーニー・マップを書く目的、および書き方について、詳細かつ論理的に説明できているかを評価する。カスタマー・ジャーニー・マップは、購買に至るプロセスごとに消費者の行動、タッチポイント、思考や感情などを整理することで、カスタマー・ジャーニーを可視化するものである。そこからインサイトを導くことで、各プロセスの課題を抽出することが目的である。それらの課題から、施策立案やオムニチャネル戦略立案などにつなげることができる。なお購買に至るプロセスには、広告コミュニケーション効果階層モデルを用いることも多い。こうした点を入れ、具体的な例を用いて詳細に説明できているかを評価する。

問II マーケティング計画の策定においては、他社製品との差別化を図るために、自社製品のポジショニングを検討することが極めて重要である。ポジショニングを検討する際に、しばしば用いられるツールが知覚マップである。

ポジショニングおよび知覚マップに関して、以下の3つの問いに答えなさい。

1. 知覚マップを用いてポジショニングを検討することの利点と問題点をそれぞれ詳しく説明しなさい。
2. 他社製品との差別化とは反対に、他社製品への同質化が目指されることもある。同質化はどのような企業にとって、いかなる局面で有効であるか。具体的な例を交えつつ、詳しく説明しなさい。
3. AI を活用することで、ポジショニングの作業はどのように変化すると考えられるか。マーケターに求められる資質や役割の変化にも触れつつ、あなたの考えを論じなさい。

出題意図・解答例

本資料では、問題の出題意図・解答例を示している。採点にあたっては、基礎概念の理解度、記述内容の豊富さ・論理性・具体性、文章の可読性を特に重点的に見る。加えて、問題の性質に応じて（特に問題IIの小問3）では、受験者自身の見解を踏まえた独創性が見られるかを採点にあたって重視する。以下には、小問ごとの出題意図と解答例を示すが、あくまで解答の方針を示すものであり、解答例を絶対的な正答と位置付けているわけではない。マーケティングを専門とする教員が提出された個々の答案内容を読み込み、受験者が本学経営学研究科の学生にふさわしい見識を有しているか公正に判断する。

問II

小問1

【出題意図】

マーケティング計画において、ポジショニングの策定は極めて重要な位置付けを占める工程である。ポジショニングについては、市販されているマーケティングのテキストのほとんどで解説されている。よって、マーケティング研究を志す者にとって、ポジショニングは必ず押さえておくべき基礎概念といえよう。そこで、本問では、ポジショニングが単にマップを描く作業ではなく、本質的な差別化を目指すための作業であることを的確に理解しているか確認するための問題を出題した。

【解答例】

知覚マップを用いてポジショニングを検討する利点と問題点の例を示す。ただし、解答例でもって全ての論点を網羅しているわけではない。ここに挙げた以外の内容でも、解答内容が論理的に正しいと判断されれば、点数を付与する。

第一の利点として、ポジショニングの作業が容易になることを挙げられる。知覚マップでは、2つの軸を組み合わせ、4象限の空間上で製品のポジショニングを考える。本来、無数の切り口がありうるポジショニングの作業を、知覚マップでは2つの軸を選択するだけで考え始めるこ

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

とができる。こうした作業の容易性は、特に経験の浅いマーケターにとって利点といえよう。

第二の利点として、ポジショニングのアイデアを増やせるという利点がある。2つの軸の組み合わせによってポジショニング空間が規定されるため、軸を1つ変えるだけで、異なるポジショニングが生まれうる。よって、知覚マップはアイデアを発散させ、より多様なポジショニングについて考えるためのツールとして有効であろう。

第三の利点として、ポジショニングについての社内理解を得やすい点を挙げられる。知覚マップは、競合他社製品との違いを視覚的にわかりやすく表現しているツールである。そのため、社内の企画会議を通す際に、言葉だけで説明するよりも説得力が高く、承認を得やすくなる効果が期待できる。

一方、知覚マップを用いたポジショニングには問題点もあると考えられる。第一に、使用が容易なツールであるがゆえに、誤用されやすいという点である。例えば、知覚マップの2軸は直交しているため、理屈上は無関係の属性を選択する必要がある。しかし、「高価格—低価格」「高品質—低品質」のように、2つの軸に極めて相関の高い属性を配置してしまうという誤りが散見される。この場合、「高価格かつ低品質」と「低価格かつ高品質」の象限は空白になっていることが多い。「価格が高いほど、品質も良い」のは当たり前だからである。このように、相関の高い2軸を選定すると、事実上1つの軸だけでポジショニングを考えていることになってしまう。これでは知覚マップの妙味をひきだせているとは言えない。

第二に、本質的な差別化には結びつきづらいという問題がある。知覚マップ上で表現される他社製品との違いは、あくまで相対的なものではない。たとえ知覚マップ上のホワイトスペースに自社製品を位置付けたところで、それは同じポジショニング空間の中に位置していることには変わりないからである。結果として、消費者にとってはわかりにくい微妙な違いしか訴求できないポジショニングになってしまう可能性がある。しかし、本来のポジショニングで求められる差別化とは、「○○といえば、**（製品）」といったように、他社ブランドの想起を許さない、絶対的な差別化であるはずである。知覚マップに依存してポジショニングを行うことで、この絶対的な差別化という視点が希薄になってしまうことが懸念される。

小問2

【出題意図】

差別化に関連して、競合製品への同質化が行われる条件についても入学志願者の認識を問う問題を設定した。たしかに、マーケティング戦略において差別化は重要なテーマではあるものの、差別化だけがマーケティング戦略ではない。どのような企業にとって、同質化戦略が目指すべき方向性になりうるのかを尋ねることで、マーケティング戦略のレパートリーについて多角的に理解できているかを確認することが狙いである。

【解答例】

業界において2番手以下の企業がユニークな製品を発売したとき、1番手企業はその製品への同質化を図ることが効果的な場合がある。なぜならば、1番手企業は市場シェアが大きいことから、スケールメリットを享受しやすく、2番手以下の企業よりも低価格で同品質の製品を提供できる見込みが高いからである。ユニークな製品への同質化を図ることで、より低価格かつユニークな製品というポジションを獲得し、消費者から選ばれやすくなると考えられる。例えば、大手コンビニチェーンが流行のスイーツを販売する場合、大手百円ショップが人気雑貨を模倣した商品を販売するケース、大手家電メーカーがニッチ商品のデザインやコンセプトを模倣するケースなどが考えられよう。

小問3

【出題意図】

日常生活や企業実務において、生成AIの活用が進んでいる今日状況の踏まえ、AIの活用がポジショニングの作業に与える影響について入学志願者の見識を問う問題を設定している。今後の企業実務においては、生成AIを上手く活用できるか否かが、マーケティング戦略の成否を決める傾向が一層強まると考えられる。実務の視点をどの程度踏まえてマーケティングを学んでいるのかを確かめる問題としても、本問は適当だと考えられる。

【解答例】

第一に、AIを用いて有望なポジショニング案を数多く引き出すことが求められるようになるだろう。有望なポジショニング案を数多く引き出すには、AIに対して的確な指示を出せる、高度な言語運用能力がマーケターには必要である。プロンプトの書き方によって、AIのアウトプットのクオリティは大きく左右されるからである。（※解答はここまでで省略するが、言語運用能力を鍛えるための方法などについてさらに論じることなどが期待される）。

第二に、AIが提示する複数のポジショニング案のなかから、見込みのあるものを選別し、ブラッシュアップしていくことが求められるだろう。マーケターには、複数の案から優れたものを選別するための審美眼ないしセンスが問われる。そのため、審美眼ないしセンスを磨くために、マーケターには従来以上に広く深い教養が求められると考えられる。（※解答はここまでで省略するが、審美眼やセンスとは具体的にどういったものかを詳細に説明すること、さらに、それらをどのようにして鍛えていくことができるのかといったことをさらに論じることが期待される）。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻
【 経営学研究科 経営学専攻 修士課程 】
試験科目
【 専門選択試験 経営科学 】

【出題意図】

経営科学分野における研究を行う上で必要となる基本的知識の理解度を問う。

【解答上の注意】 問題 I, II, III すべてに解答しなさい。

問題 I 以下の問いに答えなさい。

問 1 母集団 1 から無作為に抽出された標本(確率変数)を X_1, X_2, \dots, X_{10} とし、それらは平均 μ_1 , 分散 σ_1^2 の正規分布に従っているとす。母集団 2 から無作為に抽出された標本(確率変数)を Y_1, Y_2, \dots, Y_{10} とし、それらは平均 μ_2 , 分散 σ_2^2 の正規分布に従っているとす。母集団 1 から抽出された標本と母集団 2 から抽出された標本は互いに独立とする。それら標本を部分的に使って以下に示す統計量(確率変数)を構成し、その式を書きなさい。

- (1) 標準正規分布に従う統計量 S (2) 自由度が 4 の χ^2 分布に従う統計量 C
 (3) 自由度が 4 の t 分布に従う統計量 T (4) 自由度が (3, 4) の F 分布に従う統計量 F

【解答例】

$$(1) S = \frac{X_1 - \mu_1}{\sigma_1} \qquad (2) C = \sum_{n=1}^4 \left(\frac{X_n - \mu_1}{\sigma_1} \right)^2$$

$$(3) T = \frac{\frac{X_1 - \mu_1}{\sigma_1}}{\sqrt{\frac{1}{4} \sum_{n=1}^4 \left(\frac{Y_n - \mu_2}{\sigma_2} \right)^2}} \qquad (4) F = \frac{\frac{1}{3} \sum_{n=1}^3 \left(\frac{X_n - \mu_1}{\sigma_1} \right)^2}{\frac{1}{4} \sum_{n=1}^4 \left(\frac{Y_n - \mu_2}{\sigma_2} \right)^2}$$

【出題意図】

統計分析に関連し、正規分布から導かれる基本的な統計量について理解しているかを確認する。この問題は多様な解答が想定されるが、示された統計量の分布が指定されたものであれば正解とする。

問 2 ある大学に所属するアルバイトをしている女子学生から 12 人、男子学生から 14 人を任意に抽出し、先月一ヶ月間でのアルバイト収入を聞いたところ、表 Ia にある男女別の平均収入と収入の不偏分散を得た。これらの結果を使って平均収入に男女間で差があるかどうかを統計的に調べようとしている。そのための準備として、収入の分散(母分散)が男女間で変わらないという仮定(等分散の仮定)が妥当かどうかを統計的仮設検定により確認しなさい。標本は正規分布に従っていると仮定し、有意水準は 0.1 としなさい。必要な確率点の値は表 Ib か表 Ic のものを使いなさい。

表 Ia. アルバイト収入の調査結果 (単位: 万円)

	平均	不偏分散	調査人数
女性	3.6	1.8	12
男性	4.5	1.2	14

表 Ib. 自由度 n の t 分布の両側 0.1 確率点 $t_n(0.1)$

n	23	24	25	26	27	28
$t_n(0.1)$	1.71	1.71	1.71	1.71	1.70	1.70

表 Ic. 自由度 (n_1, n_2) の F 分布の上側 0.05 確率点 $F_{n_2}^{n_1}(0.05)$

(n_1, n_2)	(11,11)	(11,12)	(11,13)	(11,14)	(12,11)	(12,12)	(12,13)	(12,14)	(13,11)	(13,12)	(13,13)	(13,14)
$F_{n_2}^{n_1}(0.05)$	2.82	2.72	2.63	2.57	2.79	2.69	2.60	2.53	2.76	2.66	2.58	2.51

【解答例】

アルバイト収入について、女性に関する母分散を σ_1^2 、男性に関する母分散を σ_2^2 とする。

- (1) 仮説
 帰無仮説 $H_0: \sigma_1^2 = \sigma_2^2$, 対立仮説 $H_1: \sigma_1^2 \neq \sigma_2^2$
- (2) 検定統計量の値

$$f = \frac{1.8}{1.2} = 1.5$$
- (3) 棄却域の設定
 有意水準が 0.1 であることを考慮し、 $F_{13}^{11}(0.05) = 2.63$, $F_{13}^{11}(0.95) = 1/F_{11}^{13}(0.05) = \frac{1}{2.76} = 0.362$ より、棄却域は $R = \{f \mid f < 0.362 \text{ または } f > 0.362\}$
- (4) 判定と結論
 データから求めた検定統計量の値 $f=1.5$ は棄却域 R に入っていないので帰無仮説 H_0 は棄却されない。よって、収入の母分散が男女間で変わらないという仮定は妥当と言える。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

【出題意図】

統計的仮説検定について理解しているかを確認する。この問題では等分散性の検定を出題した。

問題II 以下の問いに答えなさい。

問1 表IIはこれから獲得しようとしている顧客について、その顧客の獲得費用とその顧客から毎年得られる利益の予測額である。3年間における顧客価値をその顧客がもたらす費用と利益の正味現価（現在価値の総和）で表し、どの顧客が最も有望かを示しなさい。利率は年25%を用いなさい。

表II. 初期投資額と予測利益 (単位：千円)

	顧客1	顧客2	顧客3
予測顧客獲得費用	150	200	230
顧客から得られる	1年目	140	180
	2年目	100	120
予測利益	3年目	100	100

【解答例】

顧客1, 2, 3がもたらす費用と利益の正味現価を N_1, N_2, N_3 とすると、それらは次のようになる。

$$N_1 = -150 + \frac{100}{1.25} + \frac{100}{1.25^2} + \frac{100}{1.25^3} = 45.2$$

$$N_2 = -200 + \frac{140}{1.25} + \frac{120}{1.25^2} + \frac{100}{1.25^3} = 40$$

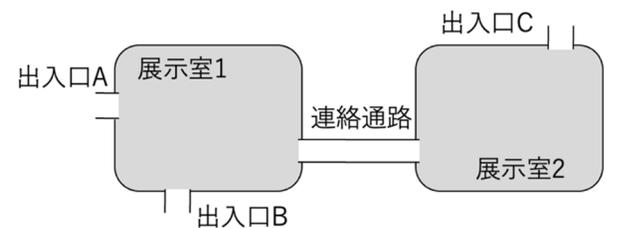
$$N_3 = -230 + \frac{180}{1.25} + \frac{120}{1.25^2} + \frac{100}{1.25^3} = 42$$

この結果より、顧客1の正味原価が最も大きいので顧客1が最も有望と判断される。

【出題意図】

経済性工学の基礎について理解しているかを確認する。この問題では現在価値について出題した。

問2 右の図はある展示会場の簡単な見取り図である。この展示会場では出入口及び連絡通路で客の出入りを記録する装置があり、それを使って各展示室に入った客の数と各展示室にいた平均の客数を調べることができる。先日、1日限定のある特別展示が行われたが、その日に出入口A, B, Cから入った客の数はそれぞれ2350人、1784人、1544人、展示室1, 2にいた平均の客数はそれぞれ638人、522人であった。また、連絡通路を通過して展示室1から展示室2へ入った客数は4840人、展示室2から展示室1へ入った客数は1830人であった。特別展示は10時開場で18時閉場であった。一人の客がどこかの出入口から展示会場に入ってどこかの出入口から出ていくまでの平均時間（展示会場全体での平均滞在時間）を求めなさい。平均滞在時間の単位は分とし、小数点以下第1位を四捨五入しなさい。連絡通路にいた時間は無視しなさい。すべての客は10時以降に展示会場に入り、18時までに出て行ったものとしなさい。



【解答例】

どこかの出入り口から展示会場に入った1分あたりの平均客数を λ 人、展示会場内にいた平均客数を L 人とする。それらは次で与えられる。

$$\lambda = \frac{2350 + 1784 + 1544}{(18 - 10) \times 60} = \frac{5678}{480}, \quad L = 638 + 522 = 1160$$

平均滞在時間を R 分とすると、リトルの公式を使って

$$R = \frac{L}{\lambda} = \frac{1160}{5678/480} = 98.06$$

よって、求める平均滞在時間は98分である。

【出題意図】

待ち行列理論の基礎について理解しているかを確認する。この問題ではリトルの公式の応用について出題した。

問3 事業への投資や金融商品への投資などでは「リスクを回避するための分散投資」が推奨されている。ここでの「リスク」とはどのように定義され、なぜ分散投資が推奨されているかについて、株式や債券などの金融商品への投資を前提に、確率や統計の言葉を使って説明しなさい。また、その説明の中で適切にポートフォリオ組むことのメリットについても言及しなさい。

【解答例】

投資におけるリスクとは、それによって得られるリターンの期待される値と結果として得られる実際の値の乖離を指し、乖離が大きいほどリスクが大きいとする。統計的には、リターンの期待される値はリターンの期待値(平均)で表され、そこからの乖離の大きさはリターンの分散で表される。ポートフォリオとは複数の金融商品への分散投資を指すが、適切に分散投資することでリターンの期待値をある程度確保した上で、リターンの分散をより小さくすることが理論的に可能である。これが分散投資を推奨する理由であり、ポートフォリオを組むメリットである。

【出題意図】

経営科学や金融工学の分野で扱われるリスクの定義とそのように定義されたリスクの性質について理解しているかを確認する。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

問題Ⅲ 線形計画問題についての問題である。ある工場では、2種類の製品 P、Q を生産している。これらの製品を作るのに3種類の原料 A、B、C を用いており、製品 P を1単位作るのに、原料 A を2単位、原料 B を2単位それぞれ使い、原料 C は用いない。そして、製品 Q を1単位作るのに、原料 A を8単位、原料 B を2単位、原料 C を6単位それぞれ用いる。各原料の使用可能量は、原料 A が240単位、原料 B が180単位、原料 C が120単位である。そして、製品 P、Q の1単位当たりの利益は、それぞれ6（万円）と8（万円）である。

そこで、利益が最大となる製品 P、Q の生産量を求める問題を考える。この問題を線形計画問題として定式化し、利益が最大となる生産量とそのときの利益を求めなさい。

また、 t を実数として、原料 A の使用可能量が t だけ変化する（すなわち、 $240 + t$ 単位に変化する）場合を考え、そして、その場合の利益の最大値 $z^*(t)$ を考える。 t が $0 \leq t \leq 100$ の範囲の値をとるとき、 t と利益の最大値 $z^*(t)$ との関係性を求めなさい。

【解答例】

(定式化)

製品 P、Q の生産量をそれぞれ x 、 y とおくと、

$$\begin{cases} \text{最大化} & 3x + 4y \\ \text{制約条件} & 2x + 8y \leq 240 \\ & 2x + 2y \leq 180 \\ & 6y \leq 120 \\ & x \geq 0, y \geq 0 \end{cases}$$

利益が最大となる生産量 x^* 、 y^* は、 $x^* = 80$ 、 $y^* = 10$ である。そして、最大利益は 560 万円である。 \geq

また、実数 t ($0 \leq t \leq 100$) と利益の最大値 $z^*(t)$ との関係は

$$z^*(t) = \begin{cases} \frac{t}{3} + 560 & (0 \leq t \leq 60) \\ \square & \square \\ 580 & (60 < t \leq 100) \end{cases}$$

である。

【出題意図】

線形計画問題の基礎について理解しているかを確認する。製品ミックス問題を取り上げ、定式化と2変数の問題を具体的に解くことを求める問題を出した。さらに、制約条件の変化に関する問題を出した。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻
【 経営学研究科 経営学専攻 修士課程 】
試験科目
【 専門選択試験 経営科学（外国人留学生） 】

【出題意図】

経営科学分野における研究を行う上で必要となる基本的知識の理解度を問う。

【解答上の注意】 問題 I, II, III すべてに解答しなさい。

問題 I 以下の問いに答えなさい。

問 1 母集団 1 から無作為に抽出された標本(確率変数)を X_1, X_2, \dots, X_{10} とし, それらは平均 μ_1 , 分散 σ_1^2 の正規分布に従っているとす。母集団 2 から無作為に抽出された標本(確率変数)を Y_1, Y_2, \dots, Y_{10} とし, それらは平均 μ_2 , 分散 σ_2^2 の正規分布に従っているとす。母集団 1 から抽出された標本と母集団 2 から抽出された標本は互いに独立とする。それら標本を部分的に使って以下に示す統計量(確率変数)を構成し, その式を書きなさい。

- (1) 標準正規分布に従う統計量 S (2) 自由度が 4 の χ^2 分布に従う統計量 C
 (3) 自由度が 4 の t 分布に従う統計量 T (4) 自由度が (3, 4) の F 分布に従う統計量 F

【解答例】

$$(1) S = \frac{X_1 - \mu_1}{\sigma_1} \qquad (2) C = \sum_{n=1}^4 \left(\frac{X_n - \mu_1}{\sigma_1} \right)^2$$

$$(3) T = \frac{\frac{X_1 - \mu_1}{\sigma_1}}{\sqrt{\frac{1}{4} \sum_{n=1}^4 \left(\frac{Y_n - \mu_2}{\sigma_2} \right)^2}} \qquad (4) F = \frac{\frac{1}{3} \sum_{n=1}^3 \left(\frac{X_n - \mu_1}{\sigma_1} \right)^2}{\frac{1}{4} \sum_{n=1}^4 \left(\frac{Y_n - \mu_2}{\sigma_2} \right)^2}$$

【出題意図】

統計分析に関連し、正規分布から導かれる基本的な統計量について理解しているかを確認する。この問題は多様な解答が想定されるが、示された統計量の分布が指定されたものであれば正解とする。

問 2 ある大学に所属するアルバイトをしている女子学生から 12 人, 男子学生から 14 人を任意に抽出し, 先月一ヶ月間でのアルバイト収入を聞いたところ, 表 Ia にある男女別の平均収入と収入の不偏分散を得た。これらの結果を使って平均収入に男女間で差があるかどうかを統計的に調べようとしている。そのための準備として, 収入の分散(母分散)が男女間で変わらないという仮定(等分散の仮定)が妥当かどうかを統計的仮説検定により確認しなさい。標本は正規分布に従っていると仮定し, 有意水準は 0.1 としなさい。必要な確率点の値は表 Ib か表 Ic のものを使いなさい。

表 Ia. アルバイト収入の調査結果 (単位: 万円)

	平均	不偏分散	調査人数
女性	3.6	1.8	12
男性	4.5	1.2	14

表 Ib. 自由度 n の t 分布の両側 0.1 確率点 $t_n(0.1)$

n	23	24	25	26	27	28
$t_n(0.1)$	1.71	1.71	1.71	1.71	1.70	1.70

表 Ic. 自由度 (n_1, n_2) の F 分布の上側 0.05 確率点 $F_{n_2}^{n_1}(0.05)$

(n_1, n_2)	(11,11)	(11,12)	(11,13)	(11,14)	(12,11)	(12,12)	(12,13)	(12,14)	(13,11)	(13,12)	(13,13)	(13,14)
$F_{n_2}^{n_1}(0.05)$	2.82	2.72	2.63	2.57	2.79	2.69	2.60	2.53	2.76	2.66	2.58	2.51

【解答例】

アルバイト収入について、女性に関する母分散を σ_1^2 、男性に関する母分散を σ_2^2 とする。

- (1) 仮説
 帰無仮説 $H_0: \sigma_1^2 = \sigma_2^2$, 対立仮説 $H_1: \sigma_1^2 \neq \sigma_2^2$
- (2) 検定統計量の値

$$f = \frac{1.8}{1.2} = 1.5$$
- (3) 棄却域の設定
 有意水準が 0.1 であることを考慮し、 $F_{13}^{11}(0.05) = 2.63$, $F_{13}^{11}(0.95) = 1/F_{11}^{13}(0.05) = \frac{1}{2.76} = 0.362$ より、棄却域は $R = \{f \mid f < 0.362 \text{ または } f > 0.362\}$
- (4) 判定と結論
 データから求めた検定統計量の値 $f = 1.5$ は棄却域 R に入っていないので帰無仮説 H_0 は棄却されない。よって、収入の母分散が男女間で変わらないという仮定は妥当と言える。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

【出題意図】

統計的仮説検定について理解しているかを確認する。この問題では等分散性の検定を出題した。

問題II 以下の問いに答えなさい。

問1 表IIはこれから獲得しようとしている顧客について、その顧客の獲得費用とその顧客から毎年得られる利益の予測額である。3年間における顧客価値をその顧客がもたらす費用と利益の正味現価（現在価値の総和）で表し、どの顧客が最も有望かを示しなさい。利率は年25%を用いなさい。

表II. 初期投資額と予測利益 (単位：千円)

	顧客1	顧客2	顧客3
予測顧客獲得費用	150	200	230
顧客から得られる	1年目	140	180
	2年目	100	120
予測利益	3年目	100	100

【解答例】

顧客1, 2, 3がもたらす費用と利益の正味現価を N_1, N_2, N_3 とすると、それらは次のようになる。

$$N_1 = -150 + \frac{100}{1.25} + \frac{100}{1.25^2} + \frac{100}{1.25^3} = 45.2$$

$$N_2 = -200 + \frac{140}{1.25} + \frac{120}{1.25^2} + \frac{100}{1.25^3} = 40$$

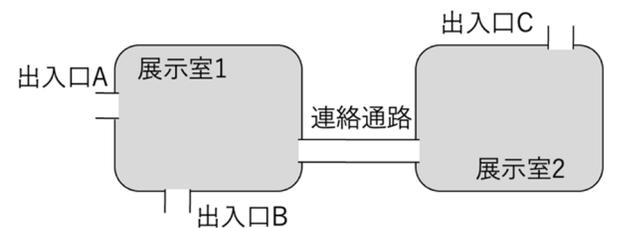
$$N_3 = -230 + \frac{180}{1.25} + \frac{120}{1.25^2} + \frac{100}{1.25^3} = 42$$

この結果より、顧客1の正味原価が最も大きいので顧客1が最も有望と判断される。

【出題意図】

経済性工学の基礎について理解しているかを確認する。この問題では現在価値について出題した。

問2 右の図はある展示会場の簡単な見取り図である。この展示会場では出入口及び連絡通路で客の出入りを記録する装置があり、それを使って各展示室に入った客の数と各展示室にいた平均の客数を調べることができる。先日、1日限定のある特別展示が行われたが、その日に出入口A, B, Cから入った客の数はそれぞれ2350人、1784人、1544人、展示室1, 2にいた平均の客数はそれぞれ638人、522人であった。また、連絡通路を通過して展示室1から展示室2へ入った客数は4840人、展示室2から展示室1へ入った客数は1830人であった。特別展示は10時開場で18時閉場であった。一人の客がどこかの出入口から展示会場に入ってどこかの出入口から出ていくまでの平均時間（展示会場全体での平均滞在時間）を求めなさい。平均滞在時間の単位は分とし、小数点以下第1位を四捨五入しなさい。連絡通路にいた時間は無視しなさい。すべての客は10時以降に展示会場に入り、18時までに出て行ったものとしなさい。



【解答例】

どこかの出入り口から展示会場に入った1分あたりの平均客数を λ 人、展示会場内にいた平均客数を L 人とする。それらは次で与えられる。

$$\lambda = \frac{2350 + 1784 + 1544}{(18 - 10) \times 60} = \frac{5678}{480}, \quad L = 638 + 522 = 1160$$

平均滞在時間を R 分とすると、リトルの公式を使って

$$R = \frac{L}{\lambda} = \frac{1160}{5678/480} = 98.06$$

よって、求める平均滞在時間は98分である。

【出題意図】

待ち行列理論の基礎について理解しているかを確認する。この問題ではリトルの公式の応用について出題した。

問3 事業への投資や金融商品への投資などでは「リスクを回避するための分散投資」が推奨されている。ここでの「リスク」とはどのように定義され、なぜ分散投資が推奨されているかについて、株式や債券などの金融商品への投資を前提に、確率や統計の言葉を使って説明しなさい。また、その説明の中で適切にポートフォリオ組むことのメリットについても言及しなさい。

【解答例】

投資におけるリスクとは、それによって得られるリターンの期待される値と結果として得られる実際の値の乖離を指し、乖離が大きいほどリスクが大きいとする。統計的には、リターンの期待される値はリターンの期待値(平均)で表され、そこからの乖離の大きさはリターンの分散で表される。ポートフォリオとは複数の金融商品への分散投資を指すが、適切に分散投資することでリターンの期待値をある程度確保した上で、リターンの分散をより小さくすることが理論的に可能である。これが分散投資を推奨する理由であり、ポートフォリオを組むメリットである。

【出題意図】

経営科学や金融工学の分野で扱われるリスクの定義とそのように定義されたリスクの性質について理解しているかを確認する。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

問題Ⅲ 線形計画問題についての問題である。ある工場では、2種類の製品 P、Q を生産している。これらの製品を作るのに3種類の原料 A、B、C を用いており、製品 P を1単位作るのに、原料 A を2単位、原料 B を2単位それぞれ使い、原料 C は用いない。そして、製品 Q を1単位作るのに、原料 A を8単位、原料 B を2単位、原料 C を6単位それぞれ用いる。各原料の使用可能量は、原料 A が240単位、原料 B が180単位、原料 C が120単位である。そして、製品 P、Q の1単位当たりの利益は、それぞれ6（万円）と8（万円）である。

そこで、利益が最大となる製品 P、Q の生産量を求める問題を考える。この問題を線形計画問題として定式化し、利益が最大となる生産量とそのときの利益を求めなさい。

また、 t を実数として、原料 A の使用可能量が t だけ変化する場合（すなわち、 $240 + t$ 単位に変化する場合）を考え、そして、その場合の利益の最大値 $z^*(t)$ を考える。 t が $0 \leq t \leq 100$ の範囲の値をとるとき、 t と利益の最大値 $z^*(t)$ との関係性を求めなさい。

【解答例】

(定式化)

製品 P、Q の生産量をそれぞれ x 、 y とおくと、

$$\begin{cases} \text{最大化} & 3x + 4y \\ \text{制約条件} & 2x + 8y \leq 240 \\ & 2x + 2y \leq 180 \\ & 6y \leq 120 \\ & x \geq 0, y \geq 0 \end{cases}$$

利益が最大となる生産量 x^* 、 y^* は、 $x^* = 80$ 、 $y^* = 10$ である。そして、最大利益は 560 万円である。 \geq

また、実数 t ($0 \leq t \leq 100$) と利益の最大値 $z^*(t)$ との関係は

$$z^*(t) = \begin{cases} \frac{t}{3} + 560 & (0 \leq t \leq 60) \\ \square & \square \\ 580 & (60 < t \leq 100) \end{cases}$$

である。

【出題意図】

線形計画問題の基礎について理解しているかを確認する。製品ミックス問題を取り上げ、定式化と2変数の問題を具体的に解くことを求める問題を出した。さらに、制約条件の変化に関する問題を出した。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻
【 経営学研究科 経営学専攻 修士課程 】
試験科目
【 専門選択試験 会計学（簿記・会計学） 】

【出題意図】

基本的な会計処理（仕訳、総勘定元帳への転記、財務諸表の作成など）の能力を評価する。
財務会計の理論に関する知識の理解度を評価する。

【解答上の注意】 問題 I および問題 II の両方とも解答すること

問題 I 次を示した X 株式会社の資料にもとづいて、貸借対照表を完成しなさい。会計期間は 20X4 年 4 月 1 日から 20X5 年 3 月 31 日である。なお、本問ではその他有価証券に関してのみ税効果会計（法定実効税率は 30%）を適用する。

[資料 1] 決算整理前残高試算表

借方	勘定科目	貸方
52,000	現金	
402,400	当座預金	
655,000	売掛金	
1,780,000	繰越商品	
35,000	仮払法人税等	
2,400,000	建物	
162,400	備品	
900,000	リース資産	
250,000	その他有価証券	
	買掛金	541,000
	リース債務	720,000
	退職給付引当金	740,000
	貸倒引当金	5,000
	建物減価償却累計額	400,000
	備品減価償却累計額	44,800
	資本金	2,000,000
	繰越利益剰余金	775,000
	売上	12,770,000
	受取利息	15,000
6,500,000	仕入	
3,810,000	給料	
200,400	広告宣伝費	
40,400	租税公課	
21,600	保険料	
801,600	支払家賃	
18,010,800		18,010,800

[資料 2] 決算整理事項等

- 銀行の残高証明書残高との不一致の原因を調査したところ、当座預金について次の事実が判明した。
 - 売掛金の回収として受け取った先方振り出しの小切手 ¥155,000 が銀行において未取立であった。
 - 広告宣伝費 ¥200,400 の支払いのために振り出した小切手が記帳のみ行い見渡しとなっていた。
- 商品の期末棚卸高は次の通りである。
帳簿棚卸高：数量 1,000 個、帳簿価額 @ ¥1,190
実地棚卸高：数量 900 個、正味売却価額 @ ¥1,050
- 売掛金の期末残高に対して 1% の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- その他有価証券は業務提携目的で保有しており、当期末の時価は ¥265,000 である。なお、全部純資産直入法を用いており、税効果会計を適用すること。
- 次の要領にて有形固定資産の減価償却を行う。
建物：定額法 耐用年数 30 年 残存価額ゼロ
備品：定率法 償却率 0.25
なお、備品のうち ¥60,000 は、当期の 6 月 1 日に取得したもので、減価償却は月割計算による。
- リース資産の減価償却を定額法、耐用年数 5 年、残存価額ゼロにより行う。なお、当該リース資産は、当期の期首にリース契約を行っており、その契約内容は、見積現金購入価額 ¥900,000、リース期間 5 年、リース料年額 ¥189,000（毎年 3 月末日に現金払い）である。この取引はファイナンス・リース取引であり、利子抜き法により処理し、利息の配分方法は定額法による。
- 租税公課には未使用の収入印紙 ¥11,000 が含まれている。
- 当期の退職給付費用は ¥60,000 である。
- 保険料は毎年 10 月 1 日に向こう一年分（毎年同額）を支払っている。
- 法人税、住民税および事業税 ¥68,000 について決算整理を行う。なお、仮払法人税等は中間納付によるものである。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

【解答例】

貸借対照表

20X5年3月31日

(単位：円)

資産の部		負債の部	
I 流動資産		I 流動負債	
現金	(52,000)	買掛金	(541,000)
当座預金	(602,800)	未払金	(200,400)
売掛金	(655,000)	未払法人税等	(33,000)
貸倒引当金	(6,550) (648,450)	リース債務	(180,000)
商品	(945,000)	流動負債合計	(954,400)
(貯蔵品)	(11,000)	II 固定負債	
前払費用	(7,200)	(リース債務)	(540,000)
流動資産合計	(2,266,450)	退職給付引当金	(800,000)
II 固定資産		繰延税金負債	(4,500)
建物	(2,400,000)	固定負債合計	(1,344,500)
減価償却累計額	(480,000) (1,920,000)	負債合計	(2,298,900)
備品	(162,400)	純資産の部	
減価償却累計額	(71,700) (90,700)	I 株主資本	
リース資産	(900,000)	資本金	(2,000,000)
リース資産減価償却累計額	(180,000) (720,000)	繰越利益剰余金	(952,750)
その他有価証券	(265,000)	株主資本合計	(2,952,750)
固定資産合計	(2,995,700)	II 評価・換算差額等	
		その他有価証券評価差額金	(10,500)
		評価・換算差額等合計	(10,500)
		純資産合計	(2,963,250)
資産合計	(5,262,150)	負債および純資産合計	(5,262,150)

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

問題Ⅱ 以下の各設問に解答しなさい。

(1)「払込資本と留保利益の区別」とはどのような考え方であるか。その意義もあわせて説明しなさい。

【解答のポイント】

前提として、払込資本の性質、すなわち、企業の所有者たる株主からの拠出であり事業活動を行う上での「元手」としての位置付けと、拠出資本と借入・融資等の額をもとに事業活動を行い、得られた「成果」であるという留保利益の位置づけを明示できていること。上記の整理を踏まえた上で、事業活動を行う上での元手と成果を分類して把握することで、適正な期間損益計算（業績表示）に資するものとする、維持すべき資本を規定することが、債権者保護の観点から必要であることに言及していること。

(2)我が国における現行制度上、企業が取得した自己株式は貸借対照表のどの表示区分に分類されるか。また、取得のために企業が負担する諸費用（付随費用）はどのように処理されるか。理由もあわせて説明しなさい。

【解答のポイント】

自己株式の取得は株主等との直接的な取引に該当し、実質的な資本の払い戻しの要素を有することに言及した上で、自己株式の表示区分として、「純資産の部」である（当該区分の減額要素である）ことを示していること。付随費用は株主等との直接的な取引に該当しない性質を有するという理由に言及した上で、当該取引が損益取引に該当し、原則として発生時の費用（営業外費用）として処理する旨を明記していること。

(3)自己株式を処分した際に生じた処分差額は、会計上、それぞれどのように処理されるか。根拠となる考え方もあわせて説明しなさい。

【解答のポイント】

自己株式の処分が株主等との直接的な取引（実質的には新株発行に準ずる取引、すなわち、資本取引）であることを明記した上で、処分差額が生じる局面を整理していること。処分差額は損益を伴う取引に該当せず、その他資本剰余金の増減（処分差益が生じた場合には加算し、処分差損の場合には原則的に控除、その他資本剰余金がマイナスとなる場合には繰越利益剰余金から補填する）として処理することを説明し、その理由として、付随費用とは異なり、処分差額は資本等取引の範疇において生じるものである（成果としての企業業績に影響を及ぼすべきものではない）ことに言及していること。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻
【 経営学研究科 経営学専攻 修士課程 】
試験科目
【 専門選択試験 会計学（簿記・会計学）（外国人留学生） 】

【出題意図】

基本的な会計処理（仕訳、総勘定元帳への転記、財務諸表の作成など）の能力を評価する。
財務会計の理論に関する知識の理解度を評価する。

【解答上の注意】 問題Ⅰおよび問題Ⅱの両方とも解答すること

問題Ⅰ 次に示した X 株式会社の資料にもとづいて、貸借対照表を完成しなさい。会計期間は 20X4 年 4 月 1 日から 20X5 年 3 月 31 日である。なお、本問ではその他有価証券に関してのみ税効果会計（法定実効税率は 30%）を適用する。

[資料 1] 決算整理前残高試算表

借方	勘定科目	貸方
52,000	現金	
402,400	当座預金	
655,000	売掛金	
1,780,000	繰越商品	
35,000	仮払法人税等	
2,400,000	建物	
162,400	備品	
900,000	リース資産	
250,000	その他有価証券	
	買掛金	541,000
	リース債務	720,000
	退職給付引当金	740,000
	貸倒引当金	5,000
	建物減価償却累計額	400,000
	備品減価償却累計額	44,800
	資本金	2,000,000
	繰越利益剰余金	775,000
	売上	12,770,000
	受取利息	15,000
6,500,000	仕入	
3,810,000	給料	
200,400	広告宣伝費	
40,400	租税公課	
21,600	保険料	
801,600	支払家賃	
18,010,800		18,010,800

[資料 2] 決算整理事項等

1. 銀行の残高証明書残高との不一致の原因を調査したところ、当座預金について次の事実が判明した。
 - (1) 売掛金の回収として受け取った先方振り出しの小切手 ¥155,000 が銀行において未取立であった。
 - (2) 広告宣伝費 ¥200,400 の支払いのために振り出した小切手が記帳のみ行い見渡しとなっていた。
2. 商品の期末棚卸高は次の通りである。
帳簿棚卸高：数量 1,000 個、帳簿価額 @ ¥1,190
実地棚卸高：数量 900 個、正味売却価額 @ ¥1,050
3. 売掛金の期末残高に対して 1% の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
4. その他有価証券は業務提携目的で保有しており、当期末の時価は ¥265,000 である。なお、全部純資産直入法を用いており、税効果会計を適用すること。
5. 次の要領にて有形固定資産の減価償却を行う。
建物：定額法 耐用年数 30 年 残存価額ゼロ
備品：定率法 償却率 0.25
なお、備品のうち ¥60,000 は、当期の 6 月 1 日に取得したもので、減価償却は月割計算による。
6. リース資産の減価償却を定額法、耐用年数 5 年、残存価額ゼロにより行う。なお、当該リース資産は、当期の期首にリース契約を行っており、その契約内容は、見積現金購入価額 ¥900,000、リース期間 5 年、リース料年額 ¥189,000（毎年 3 月末日に現金払い）である。この取引はファイナンス・リース取引であり、利子抜き法により処理し、利息の配分方法は定額法によっている。
7. 租税公課には未使用の収入印紙 ¥11,000 が含まれている。
8. 当期の退職給付費用は ¥60,000 である。
9. 保険料は毎年 10 月 1 日に向こう一年分（毎年同額）を支払っている。
10. 法人税、住民税および事業税 ¥68,000 について決算整理を行う。なお、仮払法人税等は中間納付によるものである。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

【解答例】

貸借対照表

20X5年3月31日

(単位：円)

資産の部		負債の部	
I 流動資産		I 流動負債	
現金	(52,000)	買掛金	(541,000)
当座預金	(602,800)	未払金	(200,400)
売掛金	(655,000)	未払法人税等	(33,000)
貸倒引当金	(6,550) (648,450)	リース債務	(180,000)
商品	(945,000)	流動負債合計	(954,400)
(貯蔵品)	(11,000)	II 固定負債	
前払費用	(7,200)	(リース債務)	(540,000)
流動資産合計	(2,266,450)	退職給付引当金	(800,000)
II 固定資産		繰延税金負債	(4,500)
建物	(2,400,000)	固定負債合計	(1,344,500)
減価償却累計額	(480,000) (1,920,000)	負債合計	(2,298,900)
備品	(162,400)	純資産の部	
減価償却累計額	(71,700) (90,700)	I 株主資本	
リース資産	(900,000)	資本金	(2,000,000)
リース資産減価償却累計額	(180,000) (720,000)	繰越利益剰余金	(952,750)
その他有価証券	(265,000)	株主資本合計	(2,952,750)
固定資産合計	(2,995,700)	II 評価・換算差額等	
		その他有価証券評価差額金	(10,500)
		評価・換算差額等合計	(10,500)
		純資産合計	(2,963,250)
資産合計	(5,262,150)	負債および純資産合計	(5,262,150)

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

問題Ⅱ 以下の各設問に解答しなさい。

(1)「払込資本と留保利益の区別」とはどのような考え方であるか。その意義もあわせて説明しなさい。

【解答のポイント】

前提として、払込資本の性質、すなわち、企業の所有者たる株主からの拠出であり事業活動を行う上での「元手」としての位置付けと、拠出資本と借入・融資等の額をもとに事業活動を行い、得られた「成果」であるという留保利益の位置づけを明示できていること。上記の整理を踏まえた上で、事業活動を行う上での元手と成果を分類して把握することで、適正な期間損益計算（業績表示）に資するものとする、維持すべき資本を規定することが、債権者保護の観点から必要であることに言及していること。

(2)我が国における現行制度上、企業が取得した自己株式は貸借対照表のどの表示区分に分類されるか。また、取得のために企業が負担する諸費用（付随費用）はどのように処理されるか。理由もあわせて説明しなさい。

【解答のポイント】

自己株式の取得は株主等との直接的な取引に該当し、実質的な資本の払い戻しの要素を有することに言及した上で、自己株式の表示区分として、「純資産の部」である（当該区分の減額要素である）ことを示していること。付随費用は株主等との直接的な取引に該当しない性質を有するという理由に言及した上で、当該取引が損益取引に該当し、原則として発生時の費用（営業外費用）として処理する旨を明記していること。

(3)自己株式を処分した際に生じた処分差額は、会計上、それぞれどのように処理されるか。根拠となる考え方もあわせて説明しなさい。

【解答のポイント】

自己株式の処分が株主等との直接的な取引（実質的には新株発行に準ずる取引、すなわち、資本取引）であることを明記した上で、処分差額が生じる局面を整理していること。処分差額は損益を伴う取引に該当せず、その他資本剰余金の増減（処分差益が生じた場合には加算し、処分差損の場合には原則的に控除、その他資本剰余金がマイナスとなる場合には繰越利益剰余金から補填する）として処理することを説明し、その理由として、付随費用とは異なり、処分差額は資本等取引の範疇において生じるものである（成果としての企業業績に影響を及ぼすべきものではない）ことに言及していること。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻 【 経営学研究科 経営学専攻 修士課程 】
試験科目 【 専門選択試験 経済学 】

【出題意図】

問題Ⅰ：ミクロ経済学の基本概念である、企業の競争形態と外部性についての理解度を問う。

問題Ⅱ：企業の資金調達にも密接に関わる金利について、その変動要因を理解し説明できるかどうかを問う。

【解答上の注意】問題Ⅰおよび問題Ⅱの両方に解答しなさい。

問題Ⅰ 下記のすべての問いに解答しなさい。

(1) ベルトラン競争とクールノー競争の違いについて競争形態、均衡価格、消費者余剰の観点から説明しなさい。

(2) 外部性とその解決策について、以下の語句をすべて用いて説明しなさい。使った語句には下線を引くこと。

語句：私的限界費用 社会的限界費用 限界損失 ピグー税 コースの定理 取引費用

【採点のポイント】

(1)

・ベルトラン競争が価格競争、クールノー競争が数量競争であることを理解しているか。

・ベルトラン競争では均衡価格が2社でも完全競争価格と一致すること、クールノー競争では均衡価格が企業数に依存して決まることが示されているか。反応関数が示されていればなおよい。

・消費者余剰はベルトラン競争で完全競争と同じく最大化されること、クールノー競争では企業数に応じて変化することが理解されているか。

(2)

・私的限界費用、社会的限界費用、限界損失が正しく理解されているか。

・外部性のもとの市場均衡が社会的最適と乖離することが理解されているか。

・限界損失の大きさだけピグー税を課すことで外部性が内部化されることが示されているか。

・コースの定理の前提条件が成立すればピグー税をかけずとも社会的最適が達成されることが理解されているか。

・コースの定理の前提条件は取引費用の存在により現実には成立しないことが理解されているか。

2026年度 駒澤大学大学院 2月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻 【 経営学研究科 経営学専攻 修士課程 】
試験科目 【 専門選択試験 経済学（外国人留学生） 】

【出題意図】

問題Ⅰ：ミクロ経済学の基本概念である、企業の競争形態と外部性についての理解度を問う。

問題Ⅱ：企業の資金調達にも密接に関わる金利について、その変動要因を理解し説明できるかどうかを問う。

【解答上の注意】問題Ⅰおよび問題Ⅱの両方に解答しなさい。

問題Ⅰ 下記のすべての問いに解答しなさい。

- (1) ベルトラン競争とクールノー競争の違いについて競争形態、均衡価格、消費者余剰の観点から説明しなさい。
- (2) 外部性とその解決策について、以下の語句をすべて用いて説明しなさい。使った語句には下線を引くこと。

語句：私的限界費用 社会的限界費用 限界損失 ピグー税 コースの定理 取引費用

【採点のポイント】

(1)

- ・ベルトラン競争が価格競争、クールノー競争が数量競争であることを理解しているか。
- ・ベルトラン競争では均衡価格が2社でも完全競争価格と一致すること、クールノー競争では均衡価格が企業数に依存して決まることが示されているか。反応関数が示されていればなおよい。
- ・消費者余剰はベルトラン競争で完全競争と同じく最大化されること、クールノー競争では企業数に応じて変化することが理解されているか。

(2)

- ・私的限界費用、社会的限界費用、限界損失が正しく理解されているか。
- ・外部性のもとの市場均衡が社会的最適と乖離することが理解されているか。
- ・限界損失の大きさだけピグー税を課すことで外部性が内部化されることが示されているか。
- ・コースの定理の前提条件が成立すればピグー税をかけずとも社会的最適が達成されることが理解されているか。
- ・コースの定理の前提条件は取引費用の存在により現実には成立しないことが理解されているか。

